

様式7 (事前・公表)

平成26年度 試験研究課題検討結果票 (事前)

課題No.	課題名	研究期間	研究概要 (目的・計画・予想される成果)	主な所見・指摘事項等		検討結果
				(ア)研究の必要性や重要性 (イ)研究計画の妥当性 (ウ)研究成果の普及性及び発展性 (エ)その他	指摘事項等に対する対応	
1	落花生の高品質生産技術の確立	平成27.5.29年度	<p>現在の落花生生産において最も緊急を要する問題である、病害の多発と種子生産の不安定に対して、2課題を設定して解決策を明らかにする。</p> <p>ひとつは、茎腐病等の病害に対して効果の高い薬剤を選抜し、登録取得に向けた薬効試験を行う。併せて薬剤の散布時期を明らかにする。さらに、茎腐病等に対する罹病株除去や輪作等耕種の防除方法の効果を、圃場試験あるいは疫学的調査により明らかにする。</p> <p>もうひとつは、種子歩留まりを向上させ、種子の安定生産、安定供給を図るため、降雨等の気象条件の変化に適合した、品種別の効果的なかん水技術や掘り取り後の乾燥方法を明らかにする。併せて、発芽試験の効率化を図るため、休眠打破処理等を中心に、本来の発芽能力に影響を与えない発芽試験の方法を明らかにする。</p> <p>一般栽培においては茎腐病等の防除法を確立することにより、安定生産が可能になる。また採種栽培においてはこれに加えて、種子歩留まりの高い高品質生産が可能となり、種子の安定供給を通じて本県落花生農家及び産地の維持・発展に貢献することができる。</p>	<p>(イ)「ナカテユタカ」に問題があるのであれば、それを改善した新品種を開発してはどうか。</p> <p>(ウ)幼芽褐変を防ぐためにかん水をすることだが、用水等のかん水施設がない場所ではどうするか。</p>	<p>(イ)現在、「ナカテユタカ」に代わる品種を育成し、登録の手続き等普及のための準備をすすめています。</p> <p>(ウ)そのような地域にも井戸があるので、井戸を活用する方法を考えています。</p>	4

検討結果は事務局が基準に従い以下の番号を入れる。

- 5: 独創性・貢献度等が高く、是非課題化した方がよい
- 4: 課題化した方がよい
- 3: 部分的に検討する必要がある
- 2: 大幅に見直す必要がある
- 1: 課題化する必要はない

様式7 (事前・公表)

平成26年度 試験研究課題検討結果票 (事前)

課題No.	課題名	研究期間	研究概要 (目的・計画・予想される成果)	主な所見・指摘事項等		検討結果
				(ア)研究の必要性や重要性 (イ)研究計画の妥当性 (ウ)研究成果の普及性及び発展性 (エ)その他	指摘事項等に対する対応	
2	農林業分野における放射性セシウムの低減対策とモニタリング調査	平成27年5月29年度	<p>放射性セシウム濃度の低い県産農林作物の生産に寄与するため、以下のような低減対策の研究とモニタリング調査を実施する。</p> <p>放射性セシウム濃度の低いシイタケを生産するため、落葉・土壌からほだ木への放射性セシウムの移動防止に有効で簡易なほだ木栽培技術を確立する。また、放射性セシウム濃度の低いタケノコを生産するため、竹林・タケノコの放射性セシウム濃度の経年変化と落葉除去・伐竹等による低減効果を明らかにする。さらに、茶における放射性セシウム低減対策の効果を確認し、再汚染のリスクを監視するため、茶樹及び土壌の放射性セシウム濃度の経年変化を明らかにする。加えて、農産物に対する放射性セシウムのリスクを監視するために、モニタリング調査により、水田、畑及び樹園地の土壌中放射性セシウム濃度の経年変化を明らかにする。</p> <p>これらの研究により、放射性セシウム濃度の低い県産農林作物の生産や放射性セシウムのリスクの監視が可能となる。</p>	<p>(イ)シイタケ栽培で放射性セシウムの吸収抑制対策を作るとのことだが、シイタケは安価なので栽培コストが低くないといけない。また、山の中なので作業性に注意すべき。</p> <p>(イ)ゼオライトによって放射性セシウムを吸着させるとのことだが、その後のゼオライトの扱いについても検討すべき。</p>	<p>(イ)コストと作業性を重視しながら技術開発を行いたいと思います。</p> <p>(イ)ゼオライトからの放射性セシウムの再溶出の可能性等、事後対応についても検討したいと思います。</p>	4

検討結果は事務局が基準に従い以下の番号を入れる。

- 5: 独創性・貢献度等が高く、是非課題化した方がよい
- 4: 課題化した方がよい
- 3: 部分的に検討する必要がある
- 2: 大幅に見直しする必要がある
- 1: 課題化する必要はない

様式9 (事後・公表)

平成26年度 試験研究課題検討結果票 (事後)

課題No.	課題名	研究期間	研究概要 (目的・計画・成果)	主な所見・指摘事項等		検討結果
				(ア)研究計画の妥当性 (イ)研究成果の達成度 (ウ)研究成果の普及性及び発展性 (エ)その他	指摘事項等に対する対応	
3	サツマイモの新産地活性化に向けた栽培法・貯蔵法の開発及び消費者ニーズの解明	平成23～25年度	<p>県内で栽培されるサツマイモ品種の食味特性を明らかにするとともに、それぞれの品種における食味の相対的位置を明らかにすることで、嗜好に対応した青果用の品種別販売戦略を提案する。一方、加工用サツマイモの用途別利用法を明らかにする。同時に、食味をはじめとする消費者の嗜好特性や購買行動、量販店における店頭販売実態等を把握・分析し、マーケティング戦略の構築に寄与する。さらに、顧客ニーズを満たす県産サツマイモのブランド化を目指すために、食味を重視した栽培技術を確立するとともに、生産現場で簡易に利用できる食味評価法を開発する。</p> <p>試験の結果、草勢が弱い圃場における、「べにはるか」の基肥窒素施用量は、収量性・食味を考慮すると6kg/10aが適当であった。</p> <p>焼きいもにおける食味関連要素の理化学分析値と食味官能評価値から品種別食味特性を明らかにし、食味予測値を座標軸上に示した「焼きいも食味マップ」を作成した。「べにはるか」の甘味基準値「甘味度10以上」に短期間で到達させるには、貯蔵温度は11℃が望ましく、貯蔵期間は4週間以上が必要である。</p> <p>消費者調査等から、県内産地は、当面、品質管理体制の確立に努めながら、販促活動における試食と併せ「べにはるか」の値頃感を訴求して販路を広げ、中長期的には産地間連携、調理に関する外部知識の導入等により量販店等における品種表示啓発・品揃え拡大や消費機会の拡大に資する簡便な「戦略的レンピ」開発を促進することが望ましいことが明らかとなった。</p>	<p>(ア)サツマイモのデンプン測定については、非破壊の方法を作らなければならない。現地でイモを切って確認するのは、現実的でない。</p> <p>(ウ)今回「べにはるか」の食味を良くするための最適な貯蔵条件が明らかになったが、貯蔵すると皮剥けが発生するので、それを防ぐ方法も作って欲しい。</p>	<p>(ウ)今回の試験でも非破壊の測定を試みましたが、誤差が大きく現実的ではありませんでした。後継の研究課題で取り組みたいと考えます。</p> <p>(ウ)現在、新規課題の中で皮剥けを防ぐ方法の確立に取り組み始めています。情報提供を適切に行う予定です。</p>	4

検討評価は以下の番号を記入。

- 5: 計画以上の成果が得られた
- 4: 計画どおりの成果が得られた
- 3: 計画に近い成果が得られた
- 2: わずかな成果しか得られなかった
- 1: 成果が得られなかった